

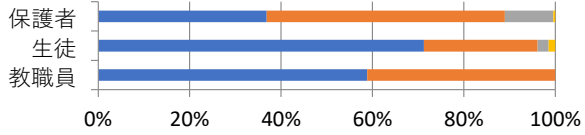
令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

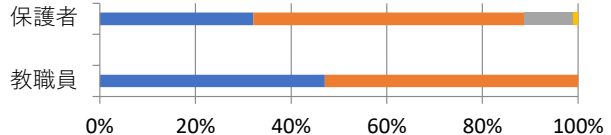
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

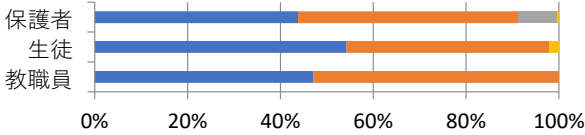


考察：自分は大切にされていると実感している児童がほとんどである。同様に保護者も、児童が大切にされ、心の教育の充実を感じておられる。昨年よりできていますと自己評価する職員が26%程増えた。その一方で、わずかでも一人一人を大切にしたい指導や対応を感じておられない児童・保護者の存在があることを真摯に受け止めなければならない。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

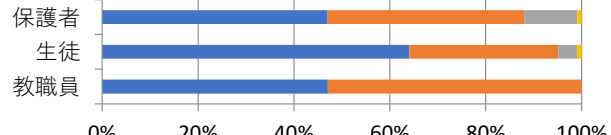
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

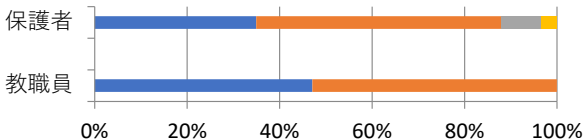


考察：ほとんどの児童・保護者は、わかる授業・楽しい授業と感じている。特にタブレット端末の活用では、もっともよい評価をしている児童が増加し、苦手意識を持つ児童が半減した。苦手意識を感じている児童の解消を進めていく必要がある。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

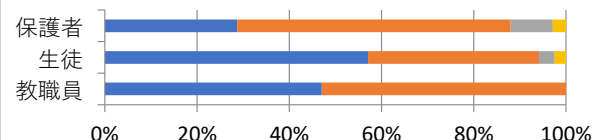
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察：交流及び共同学習の実施は子ども達どうしの相互理解の促進に、大きく寄与している。支援を要する子どもの教育については、全職員が共通理解、共通実践を行っているが、更に保護者と共に共通理解を進め、児童ひとりひとりのニーズに合った取り組みを図っていく必要がある。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：児童の安全に対する意識が高まってきた。事故防止に向けた安全教育については、概ね良い評価であるが、交通事故、学校事故0を目指し、児童への啓発活動を更に推進していかなければならない。コロナ禍の中、様々な活動が制限された状況での連携であった。スクールガードをはじめ、保護者による登下校の見守りや学校行事への支援等、多くの方々の協力をいただきとても感謝している。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
9 学校独自1	10 学校独自2
すすんで学習する児童（学力）	元気に生活する児童（生活習慣）
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：学習については、家庭と学校での差異がみられる。保護者の若干辛い評価については、児童への期待感も含まれていると思われる。学校での指導が児童に身につくように努力が必要である。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
11 学校独自3	12 学校独自4
地域や学校を大切にする児童（郷土愛）	自分を大切にする児童（自己効力感）
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：あいさつについては、家庭と学校での差異がみられる。学校以外の場面でも実践できるように、習慣化するような指導をすすめ、児童に身につくように努力が必要である。自己効力感については、児童と大人に差異がみられる。大人には「もう少し頑張れる」という期待も含まれると思われるが、ほめ、認めて伸ばすなど大人の声掛けにも工夫が必要と思われる。</p>	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

13 学校独自5	14 学校独自6
友達を大切にする児童（社会性）	いじめや差別をしない児童（人権感覚）
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
<p>考察：友達を大切にする（あいさつ）についても、概ねよくできている。家庭と学校での差異がみられる。様々な場面でも人を傷つけない（友達を大切にする）言動が習慣化するような指導をすすめ、児童に身につくような支援が必要である。相手を思う言動については、約半数の児童がよく心掛け、ほとんどの児童は概ね良好である。今できていないと自己評価している児童についても、自分の気づきから言動を改善していく支援が必要である。</p>	

来年度の具体的な取組について

- 自己と共に相手を大切にする児童を育てるために、①挨拶や言葉使い、②早寝早起き朝ごはん、③学習時間の定着など日常における基本的な生活習慣を整える指導をさらに進める。
- 相手を思いやり、感謝の気持ちを言葉や行動で表現できる児童をさらに育てるために、人権教育、道徳教育に裏打ちされた教育活動を全教科全領域で推進する。
- 地域や保護者に信頼され、連携していく開かれた学校となるために、学校通信、学年通信、学級通信や、ホームページの充実など情報発信を積極的に進める。

学校関係者評価

- 全体的に見て、落ち着いた学校生活を送れていると思う。
- 下校の様子を見ているとすれ違う人にもよく挨拶をしてくれる。
- 子どもの安全について人員が不足しているところがあれば声をかけてほしい。地域でも協力していきたい。
- 保護者の温度差を感じる。授業参観がポイントである。子どもの様子がわかる授業参観がよい。PTA活動が少ないので、保護者同士の関係が希薄になってきている。PTAの活動をもっと分かって欲しい。
- 素直に自分の気持ちを伝えられる子どもに育ててほしい。
- 通学路にあったハチの巣をタブレットで撮影して知らせてくれた。地域の安全にとっても役に立った。